

に予見した「産業社会」の特質と「産業者」の役割、ならびにそれらの未来的展望については、現代的観点から興味深い問題が提起される。

(3) フーリエについては、19世紀中ば以降の協同組合運動、労働運動、婦人解放運動、コミュニティ創設運動などに与えた直接的影響のほか、次のような諸問題がクローズアップされてくる。宇宙論的スケールで展開されている独自の歴史観、フロイトに先立つ人間情念の心理学的分析、現代文明の産物としての人間疎外の実証的描写、農業技術論・食生活論・農業労働論をふまえた自主管理的農業コミュニケーション論、さらに労働と遊びの統合の理論や教育論・社会医学論・社会資本論の展開など、フーリエの提起する問題は目まがいするほど多彩であり、着想の奇抜さは人の意表をつく。それらはいずれも現代社会の考察にあたって、なお新鮮で有効なヴィジョンを提供する。

ともあれ、「サン＝シモン、フーリエ文庫」は、今日では入手困難な多くの初版本によって構成されている貴重なコレクションである。この文庫が今後、京大関係者のみならず、広くわが国の各層の研究者の研究意欲を大いに刺激するであろうことは間違いない。フランス社会思想に関する系統的コレクションとしては、京大でも最初のものである本文庫が、さらに今後において、小樽商大の「手塚文庫」に匹敵する一大文庫として発展することを期待したい。なお、今年がフーリエ生誕200年に当たることを付記しておきたい。

———— ニュー ス

教養部図書館の建設はじまる

早くから宿願となっていた教養部図書館の建設が決定され、さる8月10日に地鎮祭が行なわれた。現在の教養部図書室は、三高時代からの古い木造建築であることと、約5,000名の学生数に対して約200席の閲覧室という小さなもので、十分なサービス体制もとれず新館の建築が望まれていた。新館は、地上2階地下1階、総面積4,320m²の大きなもので、席数も現在より2.5倍の約500席となるほか、視聴覚室、新聞閲覧室なども設けられ、47年度末に完成の予定である。附属図書館、医学図書館について第3番目の独立の図書館となるが、こんごの活動が大いに期待される。

———— 大学図書館界のうごき

京都図書館協会大学部会の事業計画決まる

京都図書館協会は47年度より、一時その活動を凍結することになったが、大学図書館部会は、研究集会を中心にして、活動を続けることにし、本館がそのお世話を引受けることになった。9月12日の委員会で、次の通り、本年度の研究集会の予定が決定した。多くの方の参加を期待したい。

(1) 書誌学研究集会

期 日	報 告 者	テ ー マ	会 場
10月7日(土)	高橋正隆氏	日本金石文について	大谷大図
11月25日(土)	伊藤祐昭氏	奈良絵本について	京大図
2月17日(土)	河本昭氏	図入本と考古図録類について	京都芸大図

(2) 図書館学研究集会

12月9日(土)	金井孝氏	雑誌の整理運用について	京大図
1月20日(土)	小国健一氏	漢籍目録について	京大図

時間はいずれも土曜午後1時半からです。